

衛星観測は「ひまわり8号」から「ひまわり9号」へ

気象庁は令和4年12月13日（火）午後2時（日本時間）に、「ひまわり8号」から「ひまわり9号」へ衛星観測を切り替えます。



平成27年7月7日から7年以上の間、上空約3万5800kmの宇宙から地球を見守り続けてきた静止気象衛星「ひまわり8号」は、令和4年12月13日（火）午後2時（日本時間）に、その役割を「ひまわり9号」にバトンタッチします。

「ひまわり9号」は平成28年11月2日に打ち上げられ、これまでバックアップ機として「ひまわり8号」の近くで待機していました。「ひまわり9号」は、「ひまわり8号」と同じ性能を備えており、天気予報、船舶・航空機の安全な運航、また、近年激しさを増す台風・集中豪雨の監視や予測などに欠かせない観測データを国内外の利用者に届けていきます。

一方で観測を終了した「ひまわり8号」は、今後はバックアップ機として「ひまわり9号」の近くで待機することになり、今後も2機による安定した観測体制を維持します。

気象庁は、静止気象衛星「ひまわり」シリーズによる切れ目のない観測を通じて、適時的確な防災気象情報の提供を続けていきます。

気象衛星観測全般については、下記のウェブサイトをご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/sat_info/himawari/satellite.html

問合せ先：

情報基盤部気象衛星課 三井、松本、町田

電話 03-6758-3900（内線 3304, 3317, 3319）